

会報

2012 ▶ 2013
WEEKLY REPORT



奉仕を通じて
平和を

田中作次

2012-13年度
国際ロータリー会長

留萌
ロータリークラブ
会長目標

ロータリーを楽しく・
学び・奉仕しよう

会長／山本讓二 幹事／森 幹雄

プログラム

- 本日
 - 来賓卓話「富士登山駅伝を終えて」
留萌自衛隊チーム 駅伝監督
 - 会員誕生日
8月24日 佐藤 潔
- 次週予定
 - ガバナー公式訪問例会
 - 配偶者誕生日
8月23日 対馬 真澄

No. 2523
第7回 8月22日

出席報告

前例会

会員総数	43名
出免会員	10名
出免出席	5名
基準会員出席	28名
出席率	76.74%

前々々会

第4回 7月25日	
欠席会員	9名
内メイクアップ	2名
修正出席率	83.22%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

会長報告

- 先日開催された呑涛まつり行灯の参加、また翌日の後片付けに会員の皆様にご協力頂き大変感謝申し上げます。
- 8月1日第2回定例理事・役員会を開催し、会長幹事を励ます会の決算報告の承認、並びに来年5月に開催するIMの実行委員長の選任を致しました。実行委員長には高田会員と決定致しました。
- 今月は会員増強並びに拡大月間です。会員皆様の情報をお願いします。

- ・妹背牛RCより8月例会案内と会報、2012～2013年度クラブ活動計画書を受領しました。
- ・芦別RCより2012～2013年度クラブ活動計画書、2011～2012年度クラブ活動報告書と8月例会案内、クラブ会報を受領しました。
- ・砂川RCより2012～2013年度クラブ活動計画書、2011～2012年度クラブ活動報告書と8月例会案内を受領しました。
- ・公益財団法人ロータリー日本財団から確定申告用の領収書を受領しました。寄付された皆様にお渡しいたします。
- ・8月29日の例会はガバナー公式訪問例会です。ネクタイ着用をお願いします。

幹事報告

- ・羽幌RC、深川RCより8月例会案内と会報を受領しました。
- ・赤平RCより8月例会案内を受領しました。

ビジター

国際ロータリー第2750地区

東京立川RC 木村 真人様

委員会報告

社会奉仕委員会 辻本 委員長
あんどんに参加された皆様、大変ご苦勞様でした。クラブの一大イベントである行事も事故無く無事終了いたしました。感謝申し上げます。

例会運営委員会 対馬 委員長
10月13日～14日に新ひだか町に於いて、国際ロータリー第2510地区の地区大会が開催されます。只今、地区大会の参加登録を受付しておりますので、ぜひ一人でも多くの会員の参加をお願いします。登録料は会員14,000円、ご家族が10,000円です。よろしくお願ひします。

会報委員会 燕 副委員長
前年度の会報を例会場の後ろに置いてあります。欠席された例会会報を補充していただければと思います。また、あんどん例会のDVDを作製いたしました。ご希望の方はご自由にお持ち下さい。無くなれば追加焼きまわしをいたします。

3分間情報

会員研修委員会 高田 副委員長
1961年2月22日第3回例会より、出席者18名(出席率69%)会務報告では国際ロータリー加盟申請書に会長幹事のサインをして送付した。
2月21日の理事会報告、ニコニコボックスの協議についてが掲載されておりました。内容は、東幹事より深川クラブの例が報告され、無断欠席、遅刻・早退の際は300円。誕生祝、結婚祝の際は300円をニコニコ箱に奉仕、出席率奨励の為テーブル4人をグループとし、毎月1回合計して最低500円をボックスに入れて頂くと紹介。栗原氏より調査の例で、無断欠席500円、遅刻・早退100円、誕生・結婚祝が500円、ボックスのお金は社会奉仕方面に使う。また、橋本氏より各会員はなるべく出席したい意欲があるが、仕事上やむを得ず欠席する事情にある。之に対して罰金的意味の金を徴収するのは思わしくない、今後会の発展に支障になるのではとの意見も出た。協議の結果、無断欠席は300円以

上、誕生・結婚等の祝、慶事ごとは500円以上をボックスに奉仕していただく事に内定する。このことはもっと協議して諮り直す必要があると会報に書かれておりました。

【三二情報】

ロンドンオリンピックについて、水泳男子の400メートルメドレーリレーの松田丈志選手は「北島康介選手には言っていないが、3人で康介さんに手ぶらで帰す訳にはいかない」と話していたそうです。その熱い思いがメダルを獲得する原動力となりました。また今大会でも大活躍の「なでしこ」は日本時間10日、3時45分からの決勝で三連覇を狙う米国と戦います。

ニコニコBOX

- ・本日例会に出席させていただきます ありがとうございます (東京立川RC)木村真人様
 - ・どんとう祭り皆様のご協力により無事終了しました ありがとうございます 辻本会員
 - ・やん衆あんどんご苦勞様でした ニノ宮会員
 - ・また一つ歳を重ねてしまいました プレゼントありがとうございます 高橋会員
- | | |
|-----|----------|
| 前 回 | 197,000円 |
| 今 回 | 12,000円 |
| 累 計 | 209,000円 |

プログラム

「我が生い立ち」

鵜城善輝 会員

「我が生い立ち」と言う事でこれからお話をさせて頂く訳ですが、自分の生い立ちを人前でお話する機会が人生において訪れるとは、正直想像していませんでした。幼い頃の断片的な記憶や、家族の思い出などを話す事があっても、生まれてから今日までの自分の半生をつなぎ合わせて語る作業は、何ともこそばゆいものでしたが、自分自身の人生をあらためて振り返る事が出来た、とても貴重な時間となりました。例会運営委員会の対馬委員長はじめ、委員



会の皆様に心からお礼を申し上げます。

さて本題に入らせていただきますが、私は父善一、母初代の次男として昭和31年2月8日に留萌にて生まれ落ちました。長男は昭和29年の9月に、北海道に接近し甚大な被害及ぼし、青函連絡船の洞爺丸が沈没した事でも知られる洞爺丸台風により、生後まもなく亡くなってしまいました。家にいると危険との事で、転々と安全な場所へ避難をしていた事が、生後間もない兄に負担がかかり死んでしまったとの事です。

兄が生後間もなく他界したという事もあって、この度久しぶりに兄の事を思い出しました。いい供養になったと考えております。また、私が生まれた場所はと言いますと、現在の「健康の駅」が建っているあたりになります。

父が、親代わりの兄が経営する水産加工業に従事していたので、その工場や伯父の住宅に隣接した小さな家で生まれました。私の2～3歳の頃の幼い記憶の中には、工場で働く女工さんの姿や、伯父の屋敷ともいえる大広間などの風景が、ベールが掛かった状態で残っております。

父は私が4歳の頃に兄から独立し、幸町に小さな店舗を構えました。独立というと聞こえが良いですが、私が生まれた昭和31年を境に、鯉がパツパツと獲れなくなった事で、伯父の経営する水産加工の会社が立ち行かなくなったからです。引越しの際に、オート三輪に乗って花園町から幸町に引っ越す道のりが、まるで遠くの町でも引っ越すかのような感覚で、変わりゆく景色を眺めていた記憶が、今もかすかに残っております。

父は、市場で生のほっけやカレイ等を仕入れてきては、さばいて干物にして売っておりましたが、その内に干し数の子を仕入れて水の張った「はちごう」で戻し、当時漂白剤として使用が許されていた過酸化水素を使って色を落とし、小袋に入れて旭川の市場へと卸す様になっておりました。その小袋が好評を呼び、数年は良い商いになっていたようですが、ある時、過酸化水素の濃度が濃いと指摘を受けて、全量返品となってからというもの、その事で多額の負債を抱えるようになってしまいました。父はその失敗以降、数の子の加工からキツパリ足を洗い、リスクが少なく痛み難い、「珍味」を商売の中心

に据え、母と共に長い年月をかけ、負債を返していきました。私は両親のその様な姿をそばで見えておりましたので、誰に言われること無く家業を継ぐものと思い込んでおりました。高校を卒業後、迷う事なく札幌の簿記の専門学校に通い、曲がりなりにも一級の資格を取って、ほどなく家業を継ぐ事になりました。

その時から早いもので30数年が経った訳ですから、どうにかこうにか親の築いた商売を絶やす事無く、現在に至っております。

続いて結婚についてお話をさせて頂こうと思います。結婚したのが私が24歳の時でした。嫁さんの雪子とは、父親同士が幼い頃からの友人と言う事があって、家族ぐるみで海水浴に行ったり、学生の頃には定期的に家族対抗でボウリングをしたり、食事をしたりという間柄でした。

私達が成人してからは、家族ぐるみの付き合いは無くなっておりましたが、幼馴染の延長で、映画を見にいたり、食事に行ったりする事は続いておりました。ただ、その後、伴侶として同じ道を歩むことになるとは全く想像していませんでした。嫁さんの親に結婚のお願いをする挨拶に行った時に、嫁さんの父親がそしらぬ顔で、平静を装って新聞を読んでいたのですが、その新聞が逆さまだった事を、今でも鮮明に覚えております。

そんなこんなで、結婚してから早いもので30数年が経ちました。当然の事ながら、紆余屈折や考え方の相違もありました。夫婦関係が皮一枚になった事もありましたが、なんとかかんとか、綱渡りは今も続いております。また、10年程前から、嫁さんが代表で、私が事務局長という立場で、留萌の海の美化を目的としたボランティア活動を行っております。長女が帰省の折、気持ち癒そうと思い、大好きな留萌の海を見に行った時に、海が汚くて悲しかったと嫁さんにつぶやいたのがきっかけとなり、仲間を募り、海の清掃活動に乗り出したという訳です。また、長い間の活動を通して地域が抱える問題点が見えるようになったり、行政の環境に対する関わり方にも疑問を持つようになり、昨年、会の代表である嫁さんを担いで、市議会議員選挙に立候補し、初当選を果たす事になりました。

嫁が市議になり、忙しく活躍することに対し

第6回 8月8日(水) 天候/晴

ては夫として何一つ不満もございませんが、逆に、市議としての仕事や対外的な付き合いの中から、今までとは格段の違いで様々な情報が夫婦の会話にももたらせられる様になり、その内私の持っている拙い情報や、考え方では立ち行かなくなるのではという、不安感を持つようになりました。その矢先に、直前会長の鈴木さんよりロータリークラブの入会のお話を頂き、二つ返事で入会させていただく事になりました。

我が生い立ちと言う事でお話をさせていただきましたが、私の近況も織り交ぜてお話をさせていただきました。

最後になりますが、私は留萌に生まれ、留萌で育ち、留萌の女性と結婚して、留萌で家庭を持ち、留萌で商売をなりわいとしております。若い時分には、留萌が嫌いで仕方ありませんでしたし、反抗するかのよう到大嫌いでした。しかしこの街で家庭を持ち、家族を持ち暮らしていく日々の中で、自分の街がとても好きに思えるようになってきました。これから留萌ロータリークラブにて、皆様と一緒に様々な事を学ぶに付けて、今以上に留萌を好きになって行く予感がしています。

ご清聴ありがとうございます。

原谷修次郎 会員

貴重な時間に私の生い立ちについてお話をする機会をいただきありがとうございます。人前で話す事が不慣れな為、聞き苦しい点もあろうかと思いますが、よろしくお願ひします。



私は、昭和33年3月12日に父清治、母カネの10人兄弟の末っ子の六男として常呂郡訓子府町駒里にて生まれました。因みに長男は、昭和12年生まれで私と19歳離れております。私の名前の由来は、父によると、当時石原裕次郎が映画俳優としてブレイクしていた事から、一文字変えて修次郎としたと話していました。家業は畑作や酪農などを複合的に営む農家でしたが、昭和36年、私が3歳の時に父が一念発起し、離農して苫小牧に引っ越しています。私は3歳で引越しているから、訓子府の酪農時代の記憶はご

ざいせんが、貧農で大変苦勞したと母兄弟からいつも聞かされておりました。離農した理由は、米が一粒も収穫できない年もあった事と、薄荷も生産していたが、外国産や加工薄荷に市場を奪われるなど農業に対する失望感があった事、後継者である長男との確執があったと聞いております。

私が訓子府に生まれた理由を説明します。父清治は、明治40年に山形県北村山郡小田島村で農業を営む原谷善兵衛の次男として生まれ、尋常小学校を卒業後、近くの農家に奉公に出され、二十歳過ぎに徴兵制度により軍隊に入隊、退役後昭和8年に丁稚奉公で貯めたお金と軍隊で貯めたお金を持って北海道に開拓に入ったそうです。その当時、山形では家長制度が強く、次男に分けるような田畑もなかったことから、北海道に入植したと聞いております。その後、昭和10年に母カネと結婚するのですが、当時の結婚の形は今とは大分違い、親の決めた人と結婚する例が多数あり、山形で父の妹が嫁いだ天童市(将棋の駒で有名な町)の武田家という農家の次女に母がおり、もうすぐ二十歳になるので北海道にいる武田家の兄嫁の弟の所に行けと言われて、一人母は汽車に乗り、青函連絡船にゆられ訓子府にやってきたそうです。親戚ではありますが、父の顔は二度程しか見たことが無かったそうです。結婚当初の話を母から聞いたところ、父が建てたボロ屋にりんご箱が二つ、ちゃぶ台がわりに置いてあったことに大変ショックを受けたと聞いています。なお、母の実家は結構裕福な農家であったようで、貧乏生活に慣れるのに苦勞したと話しておりました。

昭和36年に苫小牧に移転したのですが、農家からの転身であり、資格も車の免許も持っていない事から、行商や保険の外交員、古物商なども営みました。私は、昭和39年に苫小牧小学校に入学し、低学年の時は近くの広場で先輩後輩入り乱れて遊び、野球などをしていました。苫小牧は王子製紙で発展した街で、スポーツではアイスホッケーとスピードスケートが盛んな街でしたので、小学校5年生からスピードスケート部に入り、毎週末にハイランドスケートセンターというスケート専用コースで練習しました。しかしその頃は、体も比較的小さく、素質体力

ともに他の選手より劣っていることを悟り、スピードスケートは小学校で断念致しました。

中学からは軟式野球部に入ったのですが、2年生の時に手を負傷し、2ヶ月休部して辞めてしまいました。素質・根性・体力共に他人より劣っている事を再確認した時期でもあります。

次に高校の選択は、父の意見が「お前は頭も良くないし、これからは手に職をつけていく方が世の中で生きていける」との事から、電気関係の仕事が有力だとの意見と自分の成績では進学校へ行っても挫折すると考えていた事もあり、すんなり自宅から通える苫小牧工業高校電気科に進路を決定しました。運良く合格し、高校時代は先の述べたとおりスポーツの才能が無いことを理解していた事、また家計が火の車である事は依然として変わらなかった事から、アルバイトに活路を見出し、食堂調理補助、魚屋、土木工事、電気工事、郵便局、八百屋などを経験しました。中でも八百屋の親父さんと朝3時に卸売り市場に行き買い付けをした事は、今のほくでんの営業で働く為の役に立っていると思います。しかし、卸売り市場に行った日は授業中に居眠りをし、先生に怒られた事も忘れられない思い出となっております。一番長続きましたのが八百屋さんで、約2年間お世話になりました。先日苫小牧に行く機会があり、覗いて見ましたが、今でも八百屋を続けておりました。

高校時代の思い出のもう一つは、八百屋のアルバイトが土・日と休みであった事から、アルバイトで稼いだ金で買ったギターを友達と弾いていた事も思い出です。ギターも下手の横好きで、高校3年生の学園祭などに出場しました。ほくでんに入ってから、独身時代までギターでバンドを組んで社内活動も行っていました。

高校3年生は就職活動がメインです。当時の工業高校は、頭の良い順番から受験先が進路指導の先生から指定され、成績トップは求人が1人の電電公社(現N T T)、次は新日鉄室蘭、王子製紙、その次からは立候補し学内選抜がありました。苫小牧共同発電、日立、東芝、パナソニックなどのメーカー、その次にほくでん等が続いておりました。もちろん、上から数えて上位にはおりませんでしたので、四番手の苫小牧共同発電に立候補しましたが、校内選抜にて落

選いたしました。進路指導の先生の話では、数学が他の生徒より劣っていたとの話でした。その次にほくでんに立候補し、何とか校内選抜を抜けて、ほくでんに入社いたしました。

昭和51年4月、苫小牧営業所店配電係という部署に所属となりましたが、入社後すぐ3ヶ月間、社員研修という地獄の研修があります。札幌の藻岩にある研修所ですが、毎日穴掘りや、電柱登りなどの訓練があり、設備設計、法規などの総合的な研修を受け、昭和51年7月に苫小牧に赴任しました。配電という業務は皆様にはなじみの無い部署だと思いますので少し説明いたします。電気をお客様に送るためには、発電所(水力・火力・原子力など)で発電し、送電線(鉄塔が大半)で電気を送り、変電所(電圧を下げる所)まで送られ、その後、配電線(街の中の電柱と電線、変圧器などにより構成されている電気設備の事を配電線と言います)を通して各家庭や事務所などに電気が届けられます。苫小牧営業所では、配電線の保守(点検や測定)を2年4ヶ月経験致しました。

昭和53年4月に洞爺湖温泉電業所に転勤いたしました。この事業所は2人勤務で、所長とその家族が事務所に住宅が併設されている職場で、苫小牧から転勤にあたり、先輩から親方と喧嘩してもいいが、親方の奥さんとは絶対喧嘩すると言われてました。その理由は、朝の事務所掃除やお茶入れは小方(若手)の仕事なのですが、奥様と仲良くしていると、出勤前に奥様が先に掃除してくれる等、楽ができるからです。おかげさまで、高校時代のアルバイトで対人関係は少し慣れていたこともあり、親方や奥様ともうまくやれました。しかし、仕事はハードでした。洞爺湖温泉の事務所は有珠山火口から1.5キロメートルの位置にあり、有珠山はその前年昭和52年8月に大噴火しており、その後も地殻変動や小噴火が頻発しておりました。火山灰は毎日のように降り積もり、配電線の移設・改修工事などが多く、忙しい毎日でした。昭和54年10月には大雨により火山灰が泥流(鉄砲水)となり、多くの家屋を飲み込み数名の方が亡くなった大惨事を引き起こしており、会社生活の中でも忘れられない勤務体験となっております。

その後、昭和57年3月伊達営業所に転勤し、

第6回 8月8日(水) 天候/晴

昭和58年11月に苫小牧時代から交際していた同級生の女性と結婚いたしました。その後勤務地は、室蘭支店、伊達営業所、室蘭支店と社内ではサケマス人事と呼ばれる往復人事異動があり、昭和63年8月に今まで担当していた配電職場から、電気温水器などの販売活動を行う販売へ社命により転籍いたしました。当時の電力会社は景気の上昇に対し、発電所の建設が追いつかない状態が20年近く続いていましたが、昭和60年頃からやっと発電所建設が必要に追いついた状況でした。しかし、今度は工場など昼間は沢山需要があるのですが、夜はほとんど使われず、発電所を停止するなどの運転を行っており、発電所の効率が低下するという課題が発生し、電気温水器などの深夜の需要を確保するため、新たに業務として販売部門が作られる事になりました。発電所も車の燃費と同様で、一定速度で運転をするほうが効率が上がるのです。電気温水器やクッキングヒーターの販売には、電気配線の設計、機器の構造など技術営業と呼ばれる技能が必要であり、配電関係のものは、電気配線・機器のスキルがあることから、あとは営業のノウハウを習得すれば設計事務所や工務店への営業ができるとの判断で、全道150人程度の販売部署が新設されたのです。販売業務は、自分の性格にも合っており、お客様や工務店さんに訪問することも、色々な話を聞ける事や、建物の構造や機密・断熱・換気などの勉強になることから楽しく勉強をさせていただきました。

その後、勤務先は本社営業部、深川営業所、北見支店、札幌支店、帯広支店から留萌営業所で勤務し、人生12ヶ所目の勤務地となりました。今回の営業所長という仕事は、責任は大きいのですが、販売業務とは少し違いますが、ロータリークラブを始め街の色々な人から話を聞ける機会が多いため、大変勉強になります。

最後に、会社生活も後半になっておりますが、販売の仕事で一番ためになった事は、お客様の気持ちは十人十色であること、また、お客様から教えられることが多かった事が私の財産であると思います。ロータリークラブに参加させていただき、一期一会を大切にしたいと思います。

拙い話でしたが、私の生い立ちについてお話を終わります。ありがとうございました。

~~~~~

第1グループガバナー補佐 清水 陸様  
「地区目標について」

地区目標を理解していただき、各クラブの運営に反映されるようお願いします。

地区目標は大きく3つからなります。一つはロータリーを新世代と共に未来につなげよう。二つ目は地域や世界に役立つ奉仕をしよう。三つ目は今一度、親睦と友情を拡大しようです。

これらの地区目標を推し進めるために、具体的な項目として主なものがあります。

1. ロータリーを新世代と共に未来につなげよう。

○ライラ委員会を組織、ライラセミナーを地区大会並行プログラムとする。

○インターアクト、ローターアクト、青少年交換留学生、ROTEX、財団学友、米山学友、奨学生、地域青少年等新世代との絆を深めよう。

○世界フォーラム(広島会議)に新世代と共に参加しよう。

2. 地域や社会に役立つ奉仕をしよう。

○職業奉仕をはじめ5大奉仕を推進しよう。

○世界で良い事をしよう。「未来夢計画」の準備の年度です。

○ロータリー財団、米山奨学会、平和センター等寄付プログラムへの協力。

○東日本大震災復興支援について。

\*地区支援プロジェクト委員会が中心となって支援事業を推進。

\*福島キッズキャンプイン北海道・夏の部8月17日～21日(砂川)第1、第2、第3、第12グループ対応。

\*3月11日を含む週を特別週間としたプログラム等で対応。

3. 今一度親睦と友情を拡大しよう。

○現会員の維持と新しい仲間の勧誘、新しい友人の集まりを。

○純増3%以上を目標とします。

○平和を語り、親睦を深めるプログラムで、ロータリー情報の共有を。

これらを会員皆さんが自覚し活動をしていただきたいと思います。8月29日はガバナー公式訪問例会です。よろしくお願ひいたします。